

氏名	加藤善士
学位の種類	博士(医学)
学位記番号	甲第1152号
学位授与の日付	平成30年3月11日
学位論文題名	Functional capacity, self-rated health status, and psychosocial characteristics of employed cancer survivors in Japan 「日本におけるがんサバイバー就労者の日常生活自立度、主観的健康感及び心理社会的特徴」 Fujita Medical Journal 3(3):55-61.2017.8
指導教授	八谷寛
論文審査委員	主査 教授 橋本修二 副査 教授 守瀬善一 教授 今泉和良

論文内容の要旨

【目的】

日本では毎年約80万人が新たにがん罹患している。医療の進歩により生存率は向上し、がん治療後に就労できる者も多くなってきた。がんサバイバーの就労復帰を支援するうえで、がんサバイバーの日常生活自立度、主観的健康感、心理社会的特徴を理解する必要がある。日本におけるこれらの知見は乏しい。

本研究では、日本において就労するがんサバイバーの日常生活自立度、主観的健康感、心理社会的特徴を明らかにし、がん既往歴のない労働者と比較した。

【方法】

自記式質問紙を用いた横断研究を実施した。某地方自治体の正規職員10,748人のうち、研究参加の同意が得られ、研究に必要な情報を提供した5,474人を分析対象者とした。がんと診断された、またはがん治療を受けたと申告した者をがんサバイバーとした。日常生活自立度は障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)判定の基準にて評価し、「身体に特に障害はない」以外の回答をした者を日常生活に制限ありとした。主観的健康感、悪いとそれ以外の2群に分けた。心理社会的特徴は、社会的支援(ENRICH Social Support Instrumentにて評価)、自覚的ストレス(Perceived Stress Scale 4項目版にて評価)、社会的資本(Integrated Questionnaire for the Measurement of Social Capitalにて評価)、生きがい(あなたは生きがいを感じていますか?)、幸福感(あなたは自分がどれくらい幸せと感じていますか?)を調べた。統計分析はフィッシャー検定、t検定、マンホイットニー U検定を用いて、がんサバイバーにおける日常生活自立度、主観的健康感、心理社会的特徴の分布ががん既往歴のない労働者と異なるかを調べた。

【結果】

対象者中のがんサバイバーは112人(2.0%)であった。がんサバイバーが対象者に占める割合は、男性(3,782人)及び女性(1,692人)においてそれぞれ1.6%と3.0%、40歳未満の者(1,825人)では0.5%、40歳以上の者(3,649人)では2.8%であった。

がんサバイバーは、がん既往歴のない労働者よりも日常生活に制限がある者の割合が高かった。男性では、年齢にかかわらず、この関連は有意であった(14.5%対2.9%、 $p<0.001$)。一方、女性ではこの関連は50歳未満でのみ有意であった(15.2%対1.1%、 $p<0.001$)。

男性ががんサバイバーでは、主観的健康感が悪いと答えた者の割合ががん既往歴のない労働者よりも高かった(8.1%対1.5%、 $p=0.003$)。女性では同様の関連はみられなかった。がん既往歴と心理社会的特徴の関連は男女ともみられなかった。

【考察】

男性及び50歳未満の女性のがんサバイバーでは日常生活に制限がある者の割合が高いこと、男性ががんサバイバーでは主観的健康感が悪いとする者の割合が高いことが明らかになった。

本研究結果の解釈と一般化においては、対象者が大規模な職場で雇用された労働者であること、復職できず離職したがんサバイバーが対象者に含まれていないこと、がんの種類・治療内容・罹病期間等が異なること、がん病歴が自己申告に基づくことなどを考慮する必要がある。

論文審査結果の要旨

がん対策基本法に基づくがん対策推進基本計画(第3期)では、個別目標の一つに「がん患者等の就労を含めた社会的な問題(サバイバーシップ支援)」が挙げられている。がんサバイバーの就労支援は現在の重要課題であるが、日本での関連研究は十分でない。本研究は就労者5千人以上を対象とする大規模研究であり、がんサバイバー112人が含まれている。がんサバイバーでは、がん既往歴のない就労者と比べて、日常生活に制限のある者や主観的健康感の悪い者が多く、一方、心理社会的特徴に大きな差がないことなどが示された。がんサバイバーの多様性(発症時期、病期、治療経過等)や非就労者の考慮などの課題があるものの、がんサバイバーの就労支援に係わる重要な知見を示したと考えられる。なお、本研究はFujita Medical Journalの2017年第3巻3号55～61頁に“Functional capacity, self-rated health status, and psychosocial characteristics of employed cancer survivors in Japan”として掲載された。以上より、本研究は学位授与に十分値するものと評価された。